

徳島赤十字病院臨床研修プログラム：形成外科

コース責任者：清家 卓也

研修期間：選択必修科として2週間
選択科として4週間から

I：一般目標（GIO：General Instructional Objective）

医師として望ましい姿勢・態度と基本的な診療能力を身に付け、形成外科疾患に関する基本的な知識と技術を身に付け、外傷、手術などによる創傷を正しく評価する能力を身に付け、適切に治療する手技を習得する。

II：行動目標（SBOs：Specific Behavioral objectives）

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 基礎的な形成外科疾患に伴う体表面の損傷や病変の治療が行える技能を身に付けることができる。
- 2) 形成外科は、他科との連携が多いため、それらの科との連絡や意思疎通を適切に行い、患者の治療を行うことができる。
- 3) 頻度の高い病態、疾患に関しエビデンスに基づいた標準的な診療方法を理解し、実施することができる。
- 4) 外傷の重症度を評価することができる。
- 5) 患者・家族へ病態や病状の説明を正確に行うことができ、良好なコミュニケーションがとれる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 形成外科疾患の診断に必要な検査の結果及び所見について理解することができる。

③主な基本的手技

○救急外来患者の創傷処理

- 1) 救急外来で外傷の重傷度、創傷の状態を評価し、指導医または上級医のもと、必要に応じて縫合処置、保存的治療を行うことができる。

○形成外科手術への参加

- 1) 月曜から金曜まで予定されている手術に助手として参加し、可能な症例では形成外科的縫合を実践することができる。
- 2) 創傷被覆材や外用剤の適応を理解し、適切に使用することができる。

○その他

- 1) 形成外科的縫合を行うことができる。
- 2) 開放創の保存的治療を行うことができる。
- 3) 局所麻酔・指のブロック麻酔などを実施することができる。

C. 主な症状・病態の経験

皮膚腫瘍、眼瞼下垂、血管奇形・血管腫、ケロイド、瘢痕、指外傷、顔面外傷、熱傷、小児外傷、皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、皮膚潰瘍、顔面外傷（顔面骨骨折）など

Ⅲ：学習方法（LS：Learning Strategy）

1) LS（方略）1：On-the-job training

■主な病棟業務

1. 入院患者の創傷処置
 - ・病棟では、主治医を含む指導医または上級医の指導のもと形成外科としての基本的処置方法及び手技を習得する。
 - ・術後の創傷管理などの治療法を習得する。

■主な外来業務

1. 外来診察の見学
 - ・月曜、火曜、木曜、金曜、午前の外来診察に参加し、形成外科患者に対する診療の仕方や患者への接し方を習得する。

2) LS（方略）2：カンファレンス・勉強会

- ・週1回の術前カンファレンスに参加し術式等を学ぶ。

3) LS（方略）3：学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加する。
- ・形成外科疾患に対する講演会や研修会に積極的に参加して知識を深めるとともに、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	外来 (手術)	外来	手術	カンファレンス 外来	外来
午後	手術	手術	手術	手術	手術

IV：学習評価 (EV：Evaluation)

PG-EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1 週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、PG-EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。